

平成三十一年 秋

紅葉（いろ）映えて 色なき風に 彩（いろ）染める  
また一つ 手元離れし やりがいが そつと幕引く 学会発表  
凡人の 生きることとは 詰まるどこ 食うて息して ただ眠るだけ  
光はね 光染み入る グラデーション 影も優しき 錦秋の朝

平成三十一年 冬

初雪や 新調の橋 濡れてをり （山中温泉興桟橋）  
苔伝い 辺り着きても 瀑にもまれ  
流水に 落水の音 混じりいる 鶴仙峡の 水の豊かさ  
光吸う 露に染み入る 冬景色  
私は好き 酔つて夜寒に 一人座す  
初日の出 光の路（みち）に 鴨の発つ

平成三十二年 春

人絶えて 嬉し淋しき 花盛り  
若紅葉 摺れて届きぬ 風便り  
鳥影が さつと地を掃く 風立ちぬ  
マスク圧 息することに 因われて ジョギング中の 作詩難かし  
ミニヒットラー 世界中に 現れて コロナ戦争 大戦化する  
若楓 爪光下げる 雨垂らす ポトリボトリと 敷敷えつづ

平成三十二年 夏

供養せん 我が軒光に 巣作りて 天にめされた 一寸の魂  
紫陽花の 蜂の巣ごとき 枯れ果てて